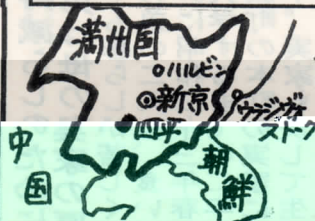


# 九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No. 159

2011(平成23)年 1月15日(土)発行



＜満州国とは＞■日本が1932年から1945年まで、中国の東北地方に建てた傀儡(かいらい・ロボット・操り人形)国家。1931(昭和16)年の柳条湖事件をきっかけとした満州事変で占領した日本軍は、翌32年清朝最後の皇帝(宣統帝溥儀(ふぎ)を執政、のち皇帝にたてて成立させた。人口3,700~5,000万人で、うち農業入植者や企業の移民などの日本人は80万人以上といわれるが、正確ではない。

## 私の戦争観



### 私の戦争観

南相馬市原町区牛越

山城 雅昭

### ●私の生い立ち

昭和十八年、満州で生まれて私は昭和十八年十一月十八日、中国の東北部、満州国とよばれていた四平街(現在の四平市)で生まれました。父は広島出身で満州鉄道に勤務し、母は原町出身でした。私は男五人、女二人の七人兄弟の三男の九人家族でした。誕生から二十一月後に終戦となりますが、父はソ連に物資を送ることを命じられ、家族全員が日本に帰国出来たのは終戦から一年後となったそうです。物資を送る命令に従えば責任を持つて安全に帰国させると言われたそうなのですが、信用できないものの従うほかなかったそうです。でも、敗戦国になった日本人で、命からがらでもなんとか無事に帰国できな方とはとても幸運で、途中で命を投げ出す方も多く、子供連れで万やむをえないで中国人へ預けられた方も多く、それが現在の残留孤児の方々です。

引揚船の底冷えの船倉の中で帰国の時の私は三歳近くでしたので、母はいつ逸(はぐ)れてもよいように、名札と餅米の粉(お湯で溶かす餅状近くになる)を背中にくくり付けておいたそうです。満州国で生まれ

たのは、長男、長女、次男、私、四男でしたが、母のお腹の中には二ヶ月後に生まれる五男がいました。「引揚船の船倉の底冷えする中で苦しくて大変だった、二度とあの思いはしたくはない」というのが、今でも母の口癖です。

### ●日本での苛酷な生活

広島県の山奥の父の実家へ親子で日本に引き揚げる上陸先は、九州でした。そこから父の郷里の広島まで、すし詰め状態の列車で、逸(はぐ)れないように私を紐で結んで移動したそうです。上陸した九州で、食糧を求めるために持っていたあらゆる金目の物を使つたと聞きました。



一年前に原爆投下された広島備線に乗り換えて中国山地の備後西城(現在の庄原市西城)にいました。私が広島に原爆がたことが分かったのは、ずつとに行くころだったと思います。それからの生活は散々でした。家から山奥のわずかな街と山家、家の中は畳ではなくムシシロた。：先日郡山市の文化遺産入植者住宅で、よくこんな生活ものだと言っていました。：。さは隙間が多く、夏は良いのですが寒かったことを今も思い出します。開墾して畑を耕しますが、父業をやつたことがなく、近くの家の方々に聞いたり、本で勉強をしたそうです。食べ盛りの子六人もいたので、常に米糧は底本家に貰いに行ったり、近所に



＜上＞終戦直前の満州国で。中央のお母さんに抱かれる1歳半の山城さん

# 食い扶持減

## 私と弟は母の

どうしても母の食費が苦しく、ついに私と末の弟の二人は、食い扶持減らしのために、昭和二十三年春頃から小学校に入学し、母の二年間、お袋の故郷原町の町で生活は楽ではなかったが、母の決意で生活は楽は原町は素晴らしく、居心地の良いところでした。

# 朝日座でのチェンバラ映画の思い出

それは娯楽の殿堂だった「朝日座」で観た映画の数々、特にチャンバラ好きのベースになった。それが現在の映画旭公園やよつば公園で暗くなるまで遊んだことを思い出します。原町の小さいおじいちゃんやおばさん、いとこのみんな、今でも感謝でいっぱいです。

# 広島に戻って

## 薪を作って、ランプの生活

小学校に入学する頃、再び私たちは原町から広島に戻りました。子供も働かざる者食べぬからず、片道一時間近く、あつて通うのが大変でした。その上、自宅はその村の一番奥で、一番近い隣家で五百メートル近くあって、電気の引き込みにはお金がかかりました。ランプ生活で、燃料の石油を町で一升びんに購入して、壊さないように持ち帰ることは大変で、他の

子供は遊びながら帰れるのに、ましくなりませんでした。

# 孫たちに悲惨な生活はさせた

冬になると山に入り、針金を薪を束ね、それを荷車に山積んで、頼まれていた町の方々に売行ったりしましたが本当に大変だ。でも知っていたがお店に立ってキャラメルやバナナ菓子を買ってその味は言い尽くせない喜びで偉ぶるわけはありません。境でも裕福な家庭の者に負けずうにと、兄弟競い合って試験になると戸板を机にして頑張りま学年別でも当時は生徒数が多く十人以上のクラスが4クラスまで、常に十番以内を堅持しました。

# 戦争の悲惨さ

私が少し大きくなつた頃、年人聞いた話として、「戦争に勝つと、勝利国の侵入者によつて分離されたり、辱めを受けたり暴されて死地に追いやられるの自決すべきではないかなども考と聞きました。

# でも、日本がアジア各国に

たてその国の方々に悲惨な思い、ことには、正直言つて悲しい、事態を決して許してはなりません。

# くすには全人類が

たないことす。どこかで戦争により争が起きていますが、地球上の争いはなくさなくてはなりません。生きる生き物の頂点にある生き物であるはず、やっだからやるべきではないつまでも戦争せん。

# 尖閣列島問題には

不謹慎かも知れませんが、今回のビデオ遺漏者の肩を持つのではない、武器を持たない、国力のない日本としては、秘密にして、直ちに世界に発信して、世界の方々に判断してもらおうことが良いのではないのでしょうか。

# 国際協力は教育の面で

ODAなどですぐに日本は金銭や物資を送り、特定の政権に回つて有益な貢献になつていくことが多く、それよりも「教育」の面で立派な人材を育てることが最良の方法と考えています。どうでしょうか。



▲平成5年9月、家族、親族、父の友人など13人で、中国東北部の旧満州国の跡地を中心に7泊8日の旅行。北京・天安門前広場にて。

「はらまち九条の会」会員、「朝日座を楽しむ会」会長

○山城さんは上記のように満州で生まれ、引き揚げや戦後の生活でご苦勞をされました。でも、幼少時の原町「朝日座」での原体験が、現在の「朝日座を楽しむ会会長」に結びついていると話され、現在映画『アフラクサスの祭』上映会に燃えておられます。○1月22日(土)①10:30②13:30③18:00 ○サンライフ南相馬